国立大学法人
大阪教育大学

連合教職大学院　教育実践力コース　綱本　遥　・新納　菜々子
連合教職大学院　教育実践力コース　鍛治　侑希・武田　茉里子

台湾・屏東大学との国際交流活動2025（教職大学院院生実践活動②）

～２つのワークショップを中心に～

経緯/概要

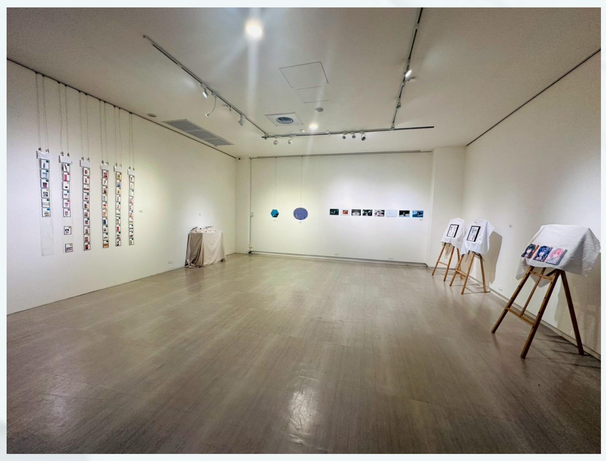
本交流は、大学院の授業「高度教科内容研究［芸術文化理解］」の一環として実施された。台湾の屏東大学視覚芸術系10名ほどの院生・学生との交流を目的に、3泊4日の日程で台湾を訪問した。日時および活動内容は表のとおりである。なお、本ポスターでは主に作品展示や鑑賞、ワークショップなどを通した交流の様子と、その中で得られた学びについて報告する。

日時および活動内容

日時	活動内容
2025/12/05	・高雄国際空港到着 ・屏東大学学長による歓迎夕食会 ・寮(屏東大学国際友人学舎住宿)にチェックイン
2025/12/06	・国立屏東大学芸術文化センターにて作品展示準備 ・作品交流及びワークショップ ・学生による自己紹介プレゼンテーション ・勝利星村ガイドツアー
2025/12/07	・禮納里先住民族集落への一日文化訪問
2025/12/08	・国立屏東大学視覚芸術学系の学生と学術交流 （陶芸・バーチャルリアリティーデザイン授業の見学） ・作品搬出 ・高雄国際空港到着

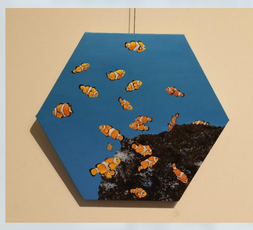
展示準備/作品紹介

屏東大学の院生・学生と協力し、作品に適した展示方法を念入りに検討しながら準備を進めた。その後の作品紹介では、屏東大学の院生が制作した作品について、作者本人から作品の意図や制作背景について説明を受けた。日本の院生・学生も持参した作品について、英語を用いて説明を行った。言葉だけでなく、身振りや作品を指し示しながら伝えることで、お互いの表現意図を共有することができた。



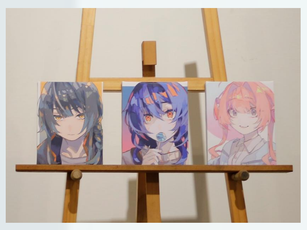
屏東大学の院生・学生と一緒に展示準備・作品紹介をする様子

日本の院生・学生の出品作品



綱本遥「カクレクマノミ」

新納菜々子「和菓子」



山埼夏子「girls」

畑守那星「そばにいるよ」

鍛冶侑希・武田茉里子「日本のお菓子かるた」

西本奏葉「動物」

ワークショップ

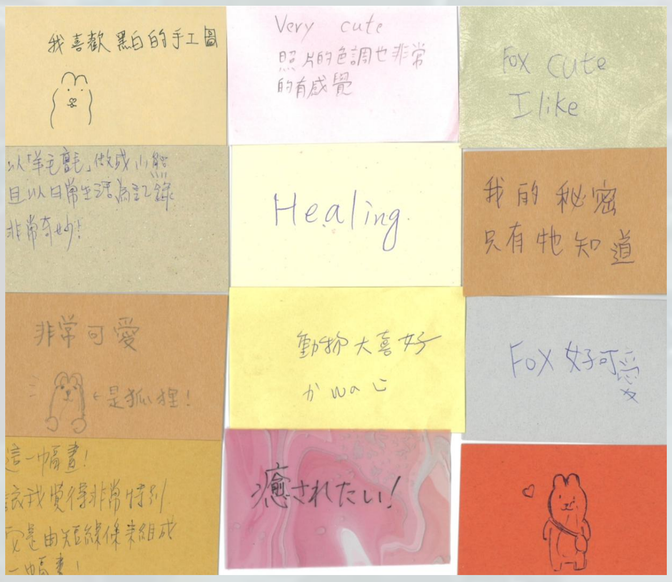
本交流では、ワークショップを2つ実施した。

①鑑賞カード（担当：綱本・新納）

参加者は名刺サイズの様々な素材で作られたカードを一人一束持ち、展示作品を鑑賞しながら、気に入った作品に対してコメントやイラストを好きな言語で自由に記入した。カードは作品の横に設置した袋に入れ、後に作者へプレゼントした。

この活動は、鑑賞者が作品から感じたことを形として残すことや、日本と台湾の学生の感じ方の違いを知ることを目的として企画したものである。最終的には多くのカードが集まり、作者にとっても鑑賞者にとっても記憶に残る交流となった。

カードを選びコメントを書いている様子



作品に寄せられたカードの一例

②駄菓子かるた（担当：武田・鍛冶）

日本人と台湾人の学生が混ざったグループをつくり、企画者が日本のお菓子の名前を読み上げた。日本の学生が英語やジェスチャーを用いてそのお菓子の特徴を伝え、台湾の学生が正しい札を選んだ。札を取った参加者には実際の駄菓子をプレゼントし、日本の駄菓子文化に触れる機会ともなった。本活動を通して、言語だけでなく、視覚的な情報や身振りを用いることでコミュニケーションが可能であることを体験することができた。

駄菓子かるた

グループで
話し合う様子

活動後の記念撮影

まとめ

作品展示や鑑賞、ワークショップなどの活動を通じて、言語や文化の違いを越えた交流を行うことができた。特に、作品を介して互いの考えや感じ方を共有する経験から、美術が国や言語を越えたコミュニケーションの手段となることを実感した。また、共同で展示を行ったり、ワークショップを企画・実施したりする中で、お互いの思いや考えをを「伝えること」や「受け取ること」の重要性について学ぶことができた。本経験は、今後、美術教育に携わる上で、多様な背景をもつ人々と表現を通して関わることの意義を考える貴重な機会となった。